

大学の世界展開力強化事業
(2021年度採択)
2022年度フォローアップ結果

大学の世界展開力強化事業プログラム委員会

2022年12月28日

独立行政法人 日本学術振興会

フォローアップの総括

2021年度に採択された20件のプログラムについて、①交流プログラムの内容、②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成、③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備、④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及⑤特記すべき成果、⑥オンラインを活用した工夫・改善点の各観点により、計画の進捗状況や設定した達成目標に対する実績（派遣・受入学生数）等を調査票によりフォローアップの上、主なものを抽出・整理した。

事業初年度であるため派遣・受入計画を行わず準備期間に充てた事業もある一方、初年度から積極的に派遣・受入を実施し目標値を上回る実績を挙げた事業も少なくない。全体での目標の達成率は非常に高い数値となっており、派遣については約90%、受入に至っては100%近い達成率となっているため今後の事業本格実施に伴いさらなる交流推進へと期待が持てる結果となっている。

なお、このフォローアップは、大学の世界展開力強化事業の適正な事業管理を行うとともに、採択プログラムにおける円滑な事業実施の支援や成果の還元のため、各取組の進捗状況等を確認することを目的に実施しているものである。

取組の進捗状況

①交流プログラムの内容

<タイプA①：CAプラスプログラム（継続コンソーシアム）>

東京海洋大学

オンライン学生交流会（OEP）をオンライン合同説明会と併せて開催することで、学生交流の場の提供だけで終わらせることなく、各大学の紹介やリアルタイム型の模擬授業（本学からは2名の教員がそれぞれ1コマずつ実施）への参加を通じて、実渡航を伴う国際協働教育プログラム（IJP）及びダブルディグリー取得を目的とする共同学位プログラム（DDP）や、オンラインと実渡航ハイブリッド型のサマースクール（STP）参加への意欲向上や具体的な参加イメージの構築に有効な取組となった。

九州大学（整理番号：A①10）

参加型の国際ワークショップや実践科目においても一部をオンライン交流学習COILに切り替え、本来は実体験を要する実践学知についても、VR等の三次元データや双方向通信を活用した仮想空間技術により現実の都市・建築空間を模擬体験させ、実際に近い学習効果を得られるように工夫した。

長崎大学

山東大学と第2モードからの連携体制により、ダブル・ディグリープログラム（博士後期課程）が実現でき、学生を受け入れることができた。さらに、韓国成均館大学校ともダブル・ディグリープログラム（博士後期課程）の協定を締結することができた。これは長崎大学でも初の取組であり、その推進により長崎大学の国際化に大きく寄与できる。

<タイプB①：CAプラスプログラム（新規コンソーシアム）>

山梨大学

AI産業界のトップランナーを各国から講演者として招き、4大学協働のキックオフシンポジウムを開催し、AIの先端実例や今後のアジアにおけるAI時代の学生の動向について学ぶ機会とした。同時に学生ワークショップを開始し、4カ国混合のグループワークによって学生同士の交流を深め、AIの知識を共有する機会とした。

広島大学

視覚障害を持つ等、多様な立場及びバックグラウンドの学生がオンラインで協働したこと、さらに広島大学に加え長春大学、インドネシア教育大学の教員が授業提供したことで、各国の特別支援教育の現状等、多角的な視点から深く学ぶ機会を提供することができた。

立教大学

オンラインによるグループワークでは、特定の学生との交流しか期待できないが、Gather Townというアプリを用いて、参加者全員が自由に往来できる空間を提供し交流を促進した。

②質の保証を伴った魅力的な大学間交流の枠組み形成

＜タイプA①：CAプラスプログラム（継続コンソーシアム）＞

東京海洋大学

ASEAN4 大学を追加した新たな単位互換システムのガイドラインは、「CTSEA（Credit Transfer System in East Asia）ガイドライン」をベースに比較的スムーズに構築が進んでいる。また、ASEAN諸国と日中韓ではスクールカレンダーに大きな差異があることを踏まえ、新たにスクールカレンダーの比較表を整理し、ワークロード（学修時間）だけではなく、実際の滞在期間についても同等なものとなるよう調整を進めている。

＜タイプB①：CAプラスプログラム（新規コンソーシアム）＞

東北大学

文理融合カリキュラム検討委員会を設置し、次年度からの新設大学院コースを設定した。カリキュラムにおいては、本学文学研究科や経済学研究科の協力のもと、健康観や医療経済等に関する複数の文系授業を新規開講し文理融合を具現化できた。今後は、歯学研究科教員へのFD研修を実施し、質の向上に努める。

長崎大学

2022年度から開始する実質的な学生派遣受入に向けて、本事業に関する学内運営委員会内規を制定するとともに、それに基づいた学内運営委員会及び内部評価委員会を開催し、2021年度の準備状況の確認・達成度評価及び次年度以降の本事業実施に関する議論を行った。

③外国人学生の受入及び日本人学生の派遣のための環境整備

＜タイプA①：CAプラスプログラム（継続コンソーシアム）＞

大阪大学

留学生の履修計画支援・学習支援・生活面のサポート体制の基盤となる「キャンパス・アジア留学生支援センター」を設置し、英語でのコミュニケーションが十分とれる教職員を配置するとともに、日本人学生の留学生サポーターを選定し、上記の組織・体制と協働してきめの細かい支援やカウンセリングを行っている。

神戸大学

リスク・マネジメント専門家という人材育成の一環として、キャリアデザインの個別相談のほか、国際機関の講師を招いたキャリアセミナーの定期的実施、リスク・マネジメント関連機関への訪問等を行い、受入・派遣生の専門家としての継続的なキャリア形成を支援している。

＜タイプB①：CAプラスプログラム（新規コンソーシアム）＞

名古屋大学

受講者の学生一人に一台のタブレット端末が支給され、タッチペン等を使ってダイレクトに手書きの回答やメモ等を作成、参加者内で共有できるシステムを取り入れた。これにより、これまでの受け身姿勢が前提だったオンライン授業に主体性を含めたインタラクティブな授業を展開することができるようになった。

④事業の実施に伴う大学の国際化と情報の公開、成果の普及

<タイプA①：CAプラスプログラム（継続コンソーシアム）>

東京芸術大学

Co-work及びアジアアニメーション教育ネットワーク（AAEN）の啓蒙と発信を目的とするウェブサイト「Tokyo Geidai Campus Asia Plus（仮称）」の開設を準備した。今後は、既設の「東京藝大アジア・アート・イニシアティブ（AAI）」を活用し、アジアの芸術文化を扱っている国内大学、研究機関、財団等との連携も模索する。

東京工業大学

本プログラムの紹介動画（日・英）及びウィンターキャンプ記録動画を制作し、本学ウェブサイト、公式YouTubeチャンネル、本プログラムウェブサイトに掲載し、本学学生・教職員並びに学外へのプログラム周知を図った。

東京海洋大学

本プログラム専用公式サイトを2022年3月に開設し、学内外に各種イベントやプログラムの情報発信に活用している。2022年度には、新たに構築した単位互換のガイドラインや各種様式を掲載し一層の充実を図る。なお、2022年3月にしたオンライン学生説明会のスキームを活用して、2022年度には本学として初めてリアルタイム型の外国人留学生向けオンライン入試説明会を開催する予定としており、本プログラムの実績や事例が本学の他の取組に波及する形で国際化が推進する一つの事例となった。

<タイプB①：CAプラスプログラム（新規コンソーシアム）>

立教大学

公式ホームページにおいて、本事業責任者のインタビュー記事を掲載し、大学の世界展開力強化事業並びに国際的な枠組みの中でのリベラルアーツ教育の意義について発信をした。本取組は本学のリベラルアーツ教育の国際的な立ち位置を確認する機会となり、更なる深化を促す機会となっている。この取組を通して、日本国内のリベラルアーツ教育の高度化を目指している。

特記すべき成果

<タイプA①：CAプラスプログラム（継続コンソーシアム）>

東京大学

2022年度「CAMPUS Asia Joint Course」開講に向けた教育内容の拡充は特記すべき成果である。春学期のみの開講（4単位）から通年（各学期2単位）としたことにより、参加学生同士のコミュニケーションが年間を通じて取りやすくなった。春学期には東アジアの国際関係と公共政策について学び、秋学期には日本の公共政策について学ぶため、修了生の協力を得て地方自治体との協働によるソリューションベースの授業とし、中央省庁（総務省）の人事部経由でアジアの学生との交流を希望する官僚を募集するという、我が国でも新しい試みを行うよう協議を重ねたことで、本プログラムの充実に貢献した。

長崎大学

2021年度には第1回インフラ人材育成コンソーシアム運営会議をオンラインで開催し、これまでの日中韓大学での連携実績をもとに各大学の関係者と事業内容等の検討を行い、学術交流協定及び学生交流に関する覚書を新たに締結した。また、2022年度以降、南洋理工大学及びラオス国立大学を加えた5大学間による締結に向けた取組を確認した。さらに、大学間実務担当者会議（各部会）を開催し、今後のプログラム実施内容についての意見交換と討議を行い、実施計画・体制を確認し円滑な事業運営の意思疎通を図ることができた。

また、学生交流プログラムでは、これまでの日中韓大学の連携実績により、試行的に「日中韓オンライン学生交流プログラム」を実施、3大学から計29名の学生が参加した。博士後期課程でのダブル・ディグリープログラムは、2021年度に制度設計を完了し2022年度に受入れを開始する予定であったが、予定を半年早めて、2021年度中に山東大学から1名の博士後期課程のダブル・ディグリー学生の受入れを実現することができた。

<タイプA②：CAプログラム（継続コンソーシアム）>

立命館大学、立命館アジア太平洋大学

プログラム生のみならず、複数言語学習者に広く資するべく、プログラム生の経験や、言語教育関係者の知見をまとめた『多言語学習ハンドブック』を2022年4月に刊行した。複数言語教育研究者や現役プログラム生に配布するとともに、公式WEBサイトに掲載し、成果を公表した。

<タイプB①：CAプラスプログラム（新規コンソーシアム）>

東北大学

2022年1月開催のキックオフシンポジウムには12カ国・地域から延べ300人以上が参加し、歯学教育・研究について幅広い情報交換ができ、国際共同教育・研究の推進、本事業の社会発信強化に寄与した。また、オンラインによる教育が難しいとされている技能教育において、IT技術を用い、デジタル歯科に関するハンズオンセミナーをオンラインで実施した。さらに、歯学分野で世界初の試みとして、本学文学研究科や経済学研究科と連携し、複数の文系授業を新規開講し、文理融合カリキュラムを有した新設大学院コースを設定した。最終的には、全ての連携校でマルチモーダルな人材育成を目指すカリキュラムの設定を計画している。

特記すべき成果

<タイプB①：CAプラスプログラム（新規コンソーシアム）>

筑波大学

MoUの締結に向けて、2021年12月、2022年3月、2022年5月と3回にわたって日中韓3大学会議を開催し、各大学のコロナ禍の実態や各大学の授業開講形態、単位認定基準、各大学の学年暦等、本事業に係る国別の実施条件等の情報交換と意見交流を行うことにより、事業実施に関わる課題を共有することができた。3大学間でMoUの内容を合意した後にASEAN3大学と個別に意見交換を行い、MoUの内容を調整した結果、内容の合意を形成して2022年6月21日に6大学会議を開催することができた。

広島大学

2021年度に実施したCOIL型教育は、すでに広島大学で実施しているオンライン教育プログラムをベースにした形のものであることから、企画から実施までの検討を簡略化することができ、初年度から実質的なプログラムをスムーズに開始することができた。当該プログラムに引き続き、韓国外国語大学がオンデマンド型の同テーマについてのコースを実施し、当該学習に参加した学生の中から27名が参加した。共同実施大学間で連続的な取組を実施することにより、当該分野に関する参加者の理解を定着させることができた。

オンラインを活用した工夫・改善点

<タイプA①：CAプラスプログラム（継続コンソーシアム）>

千葉大学、芝浦工業大学

Zoom、Google Meet等のオンライン会議システムと併用して、Google Document、Google Sheet、Google Slide、オンラインホワイトボードツールMiroを活用することで、オンラインの特性を活かした参加者全員でリアルタイムに双方向で創造活動を行えるよう工夫した。

また今回、Online Joint Design Class “Infographic Design”の成果発表の場として、VRを使ったバーチャル展示会の開催を行った（<https://socialdesigninitiative.studio.site/posts/the-modern-interior-design>）。

名古屋大学

- ・派遣を終えた学生による留学報告会・座談会をオンラインで実施した際、オンライン上で質問することをためらう学生や、当日参加できない学生に対応するため、事前にオンラインアンケートを実施し、留学に対する質問や疑問点を収集した。また、なるべく多くの学生が参加できるよう、別の日程で二度実施し、さらに録画を一定期間公開した。
- ・コロナ禍で大学への登校が制限される中、オンラインでの相談・質問を受付、対応した。
- ・事前学習の一環として、特別講演や授業を、本プログラム本研究科の卒業生の実務家や研究者、国内外の中国や韓国の専門家、協定校の教員等によってオムニバス形式で提供した。本研究科の大学院留学生による授業も実施し、参加学生に刺激を与えた。特別講演や授業も全て録画し、一定期間オンラインで公開した。

九州大学（整理番号：A①09）

サマースクールでは、企業の協力を得てオンラインによる工場見学ツアーを実施した。ビデオカメラを使って工場内をリアルタイムで見学することができ、臨場感のあるオンラインツアーとなった。また、スプリングセミナーでは、マレーシア工科大学も含めた各大学の学生が母大学に関連する文化や社会を紹介するプレゼンテーションを実施した。プレゼンテーションの内容に対して学生同士が質疑をしたが、時間が十分に取れなかったため、今後は、ディスカッションやディベート等を取り入れ、オンライン交流の内容を拡充することを考えている。

オンラインを活用した工夫・改善点

<タイプA①：CAプラスプログラム（継続コンソーシアム）>

九州大学（整理番号：A①10）

都市・建築分野の特徴である設計演習については、Zoom等の双方向通信と併せて、デジタルホワイトボードに学生の作品を掲出し、オンライン上でリアルタイムに修正点やコメントを直接図示することにより、対面に近い水準で受講生を指導する設計教育方法を開発した。新型コロナウイルス感染症のため渡日できない留学生向けあるいは海外の教員が参加する演習において試行し、通信環境が整えば設計演習でも問題なく実施できることを確認した。

なお、設計等の演習課題においては、課題対象地を実際に訪れることができないという問題が生じるため、360°カメラや3Dスキャナ等を用いて、予め対象地の三次元情報や動画情報等のデジタルデータをサイバースペース（仮想空間）に準備し、XR技術（Extended Reality）を活用して遠隔地からもオンラインで設計演習に参加できるように工夫した。また、現地（国内）の学生と交流先の学生が複数名でチームを構成して課題に取り組むことで、国内学生が詳細な現地調査を支援し、交流先の学生にも最大限の学習効果を発揮する体制を整え、対面と同様の積極的なコミュニケーションにより国際力の養成を図っている。

共同学位プログラム（DDP）の研究指導については、双方向の遠隔会議システムの活用により、指導教員や交流先の受け入れ教員と当該学生が研究に関する議論を行う場を設け、実渡航期間に限定しない長期間の研究指導・助言が可能な教育方法を実施した。オンライン交流の活用により、修士論文の指導や助言に関して、大学コンソーシアムの教員の他、遠隔地の専門家にも参画してもらう機会を設け、より専門性の高い論文指導が可能となるオンライン国際交流学習COIL（Collaborative Online International Learning）を実行した。

<タイプB①：CAプラスプログラム（新規コンソーシアム）>

広島大学

視覚障害のある学生も参加していたことから、共有画面の色見を工夫したり、図表や字幕を活用する等、様々な参加者への配慮を行った。また、活発な議論ができるよう、オンライン上でBreak Upセッションを行った。

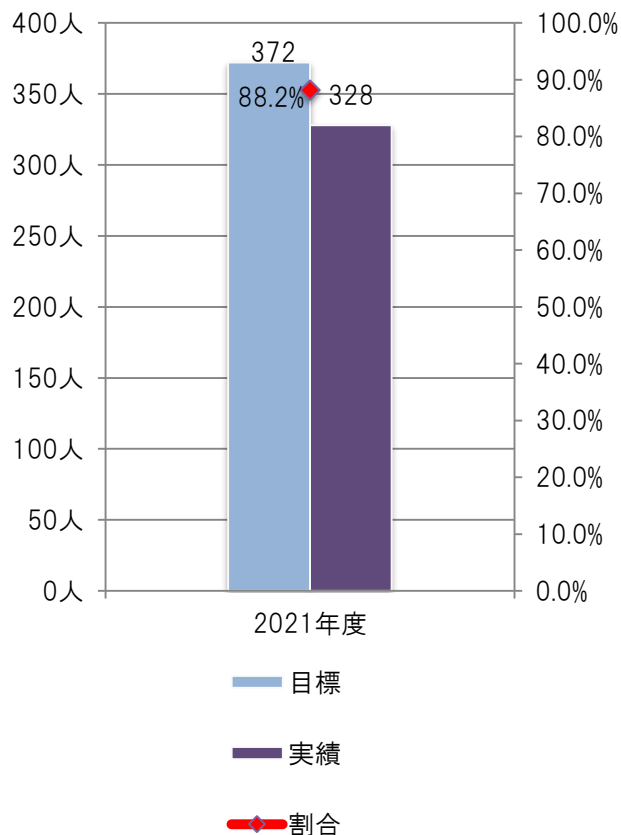
広島大学に加えて、共同実施大学である長春大学、インドネシア教育大学からも教員が講義を提供することで、連携大学間での複数の視点から重層的な交流プログラムを実施することができた。

交流学生数の実績

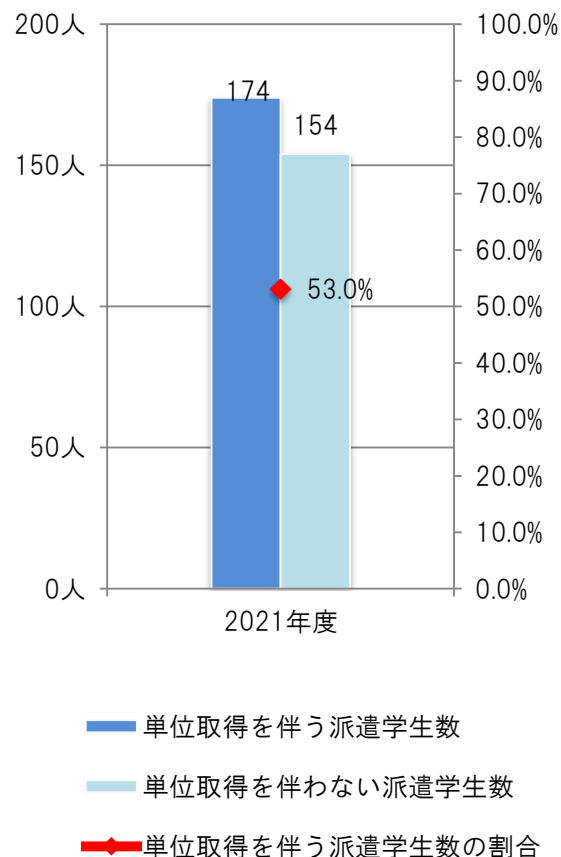
(1-1) 交流プログラムで留学した日本人学生数（派遣学生数）について ＜全体の状況＞

2021年度はコロナ禍によるオンライン交流の定着及び渡航制限の部分的な解除が追い風となり、目標以上の実績を上げた大学もあった。全体的には目標の約9割を達成しており、また、単位取得を伴う学生も半数以上となった。

目標に対する実績の割合（派遣）



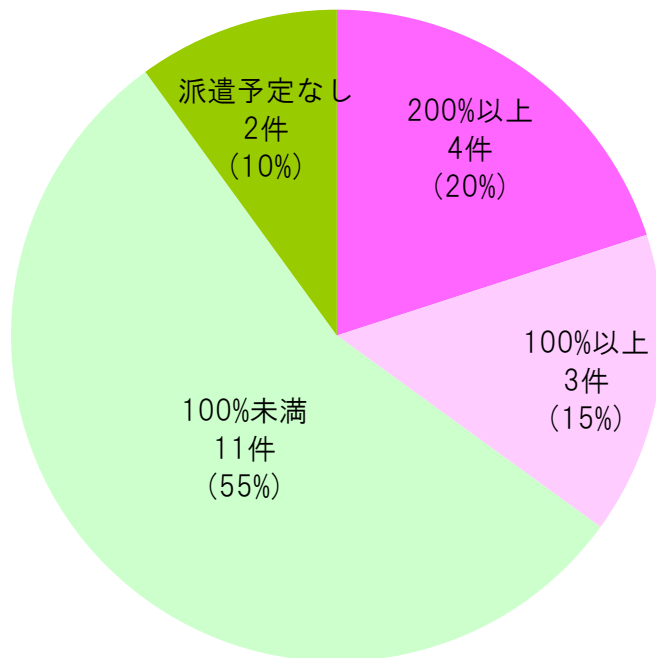
＜参考＞単位取得を伴う派遣学生数



(1-2) 交流プログラムで留学した日本人学生数（派遣学生数）について ＜各プログラムの状況（2021年度）＞

2021年度は初年度ということもあり、派遣の計画をせず準備期間にあてた大学もあったが、一方でオンラインを活用した交流等により目標を達成した大学も少なくない。

実績の割合（派遣）



※個別の派遣学生数の詳細は別表1参照

(1-3) ⑨交流プログラム（派遣）の進捗状況のコメント

<タイプA①：CAプラスプログラム（継続コンソーシアム）>

東京工業大学

オンラインプログラム「ウィンターキャンプ」では、4大学が合意して設定したテーマ「新型コロナ時代のアート、科学技術の新しい貢献」の元、メインホストを務めた本学だけでなく、各大学の教職員が意見を持ち寄り、複数回のオンラインミーティングを通して企画・実施した。南洋理工大学を加えた第3モード初年度として、このように4大学が協力して1つのプログラムを実施できたことは、今後の事業運営をスムーズに進めるための大切な機会であった。

また、第2モードまでの課題でもあった派遣学生数の伸び悩みについて本プログラムの部会構成員と意見交換を行い、学生向けのプロモーションに加え、教員向けのプログラム周知を強化する方針を固めた。実渡航での留学が再開する2022年度初めから、教員向けプロモーションを開始すべく準備を進めている。

<タイプA②：CAプログラム（継続コンソーシアム）>

立命館大学、立命館アジア太平洋大学

派遣先大学の協力のもと、韓国政府の感染症予防政策や感染時の対応、最新の現地情報等を盛り込んだ「韓国渡航ガイドブック」をプログラム独自で作成・配布し、渡航前ガイダンスで実渡航学生に周知徹底した。それにより海外でのコロナ感染への不安の軽減、安心・安全な留学プログラムの提供に努めた。なお、実渡航拒否によるプログラム辞退者はいなかった。

<タイプB①：CAプラスプログラム（新規コンソーシアム）>

立教大学

2022年2月に開催したキックオフイベントであるウィンターインテンシブプログラムは、2月14日の基調講演とグループワーク、2月18日のプレゼンテーションで構成されたオンラインプログラムであった。通常のオンラインでのグループディスカッションを実施した場合、グループの学生のみでの環境での意見交換となり、他のグループとの交流ができないため、閉鎖的な空間で特定の学生同士の学生交流となる欠点がある。

この欠点を克服するため、今回はGather Townというアプリを用いて、雑談スペースを設けグループ外の学生との交流を可能とすることを目指した。この結果、グループ外の学生同士のコミュニケーションが行われ、2月15日～2月17日に自由開催とされたグループワークでは、チームメイトだけではない交流が確認されており、このような交流をデザインすることができたことは、新たなオンライン学習の取組成果である。

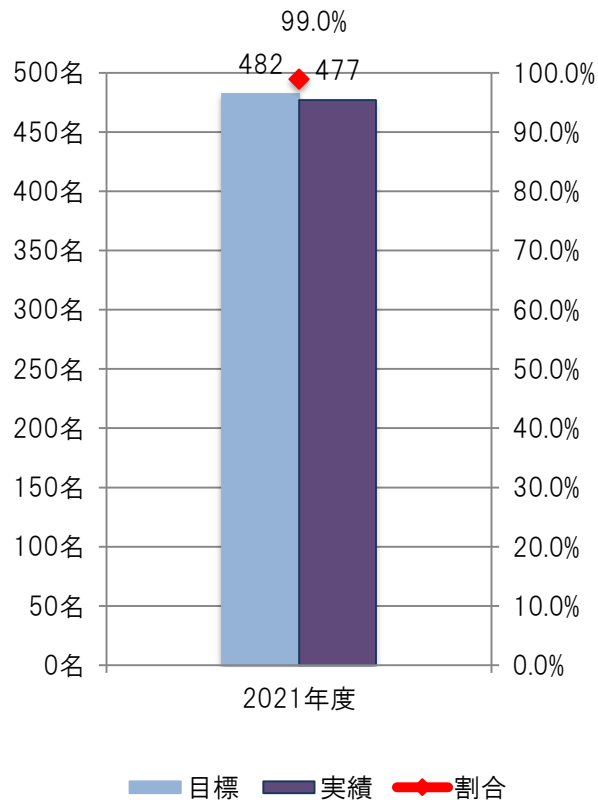
交流学生数の実績

(2-1) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数（受入学生数）について

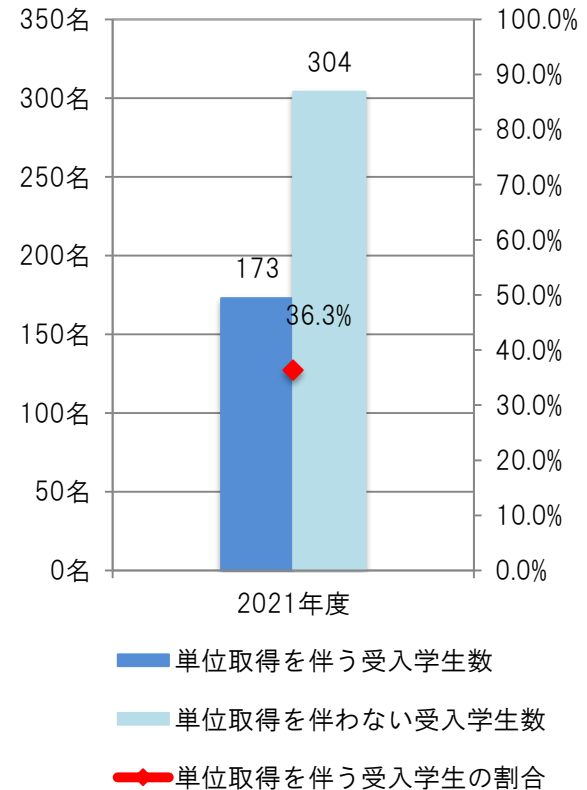
<全体の状況>

前述のとおりオンライン交流の定着と渡航制限の部分的な解除の影響により、100%に近い目標達成率となっている。一方で、単位取得を伴う受入学生の割合は派遣学生と比較してやや低水準となっている。

達成目標に対する実績の割合(受入)

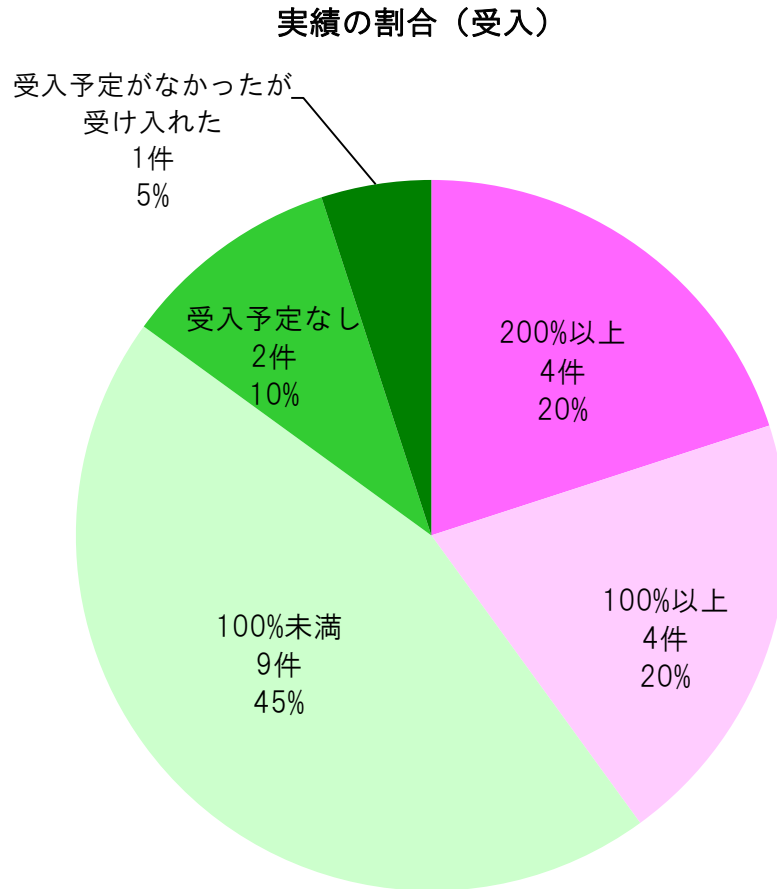


<参考> 単位取得を行う受入学生の割合



(2-2) 交流プログラムで受け入れた外国人学生数（受入学生数）について <各プログラムの状況(2021年度)>

派遣学生数と同様、初年度は受入の計画をせず準備期間にあてた大学もあったが、一方でオンラインを活用した交流等により目標を大きく上回って達成した大学や、予定を変更して受け入れた大学も少なくない。



※個別の受入学生数の詳細は別表2参照

(2-3) ⑩交流プログラム（受入）の進捗状況のコメント

<タイプA①：CAプラスプログラム（継続コンソーシアム）>

長崎大学

山東大学との第2モードからの連携体制により、ダブル・ディグリープログラム（博士前期課程）では3名の学生を、さらにダブル・ディグリープログラム（博士後期課程）が実現でき、1名の学生を受け入れることができた。特に博士後期課程でのダブル・ディグリープログラムは、長崎大学全体及び大学院工学研究科においても、初めての取組であり、その推進により長崎大学の国際化に大きく寄与している。新型コロナウイルス感染拡大の影響で実渡航ができない中、事務局に配置した留学生対応の経験が豊富なネイティブの語学国際コーディネーターが対応を行い、受け入れる体制を整えている。これまでのダブル・ディグリープログラムの学生の多くは、自国と留学先の大学院博士後期課程への進学や大手企業への就職等を決めており、極めて優秀な人材育成が実現できている。国際共同学位プログラムとして国際的に活躍できる人材育成の役割を十分に果たしていると考えられる。また、相手大学の指導教員を学位審査員として参加させることにより、教育の質が保証されている。さらにコンソーシアム運営会議及び大学間担当者会議においては、ダブル・ディグリー制度の課題点等を三大学で話し合い改善方法について議論する等、継続的な改善を実施することが合意された。

早稲田大学

新型コロナウイルスの感染拡大状況と各国の入国制限措置により実渡航を伴う交流を実現することはできなかったが、プログラムの理念とミッションを理解した未来のソーシャルイノベーターとなり得る人材を今後4大学協働で育成すべく、早稲田大学主導による「FY2021 Waseda Social Innovation Online Symposium」をオンラインで実施した。本事業採択以降、実渡航を伴う交流が停滞している中で、4大学間で今後進めるべくプログラムの共通理念を確認する機会になっただけでなく、海外相手先大学の学生にとっては本学教員や学生とディスカッションする機会となり、今後の4大学連携の素地になったと言える。各大学間の授業同士を繋ぎ合わせたCOIL型の授業の展開も計画しているが本事業実施主管学部である早稲田大学社会科学部では、2021年度に北米大学との協働によるCOIL型授業の展開実績があり、相手先大学学生にも高い満足度を得ている。キャンパスアジアの枠組みのメリットのひとつである時差の影響が少ない実態を活かし、各大学間の授業同士を繋ぎ合わせたCOIL型の授業の展開の検討を開始している。

<タイプB①：CAプラスプログラム（新規コンソーシアム）>

山梨大学

ワークショップでは、各国の学生をグループ分けし、各グループ毎にAIに関するテーマを与え、ディスカッションと発表を行った。他国の学生との交流を深めるとともに同じ分野で共に学ぶ学生たちの今後の交流を広げる契機とすることが出来た。

また、アジアのAI界を牽引する企業のディレクター等を招き、講演を拝聴する機会とし、今後本格的に稼働するこのプログラムへの参加意識を高めることが出来た。

(3-1) 任意指標 進捗状況

<タイプA②：CAプログラム（継続コンソーシアム）>

立命館大学、立命館アジア太平洋大学

アジアグローバルコースでは、2023年度に移動キャンパス1周目に参加する学生（2022年度入学生）から募集・選抜が始まるため、派遣は2024年度から（3年次派遣）、インテンシブアジアコースでは、2022年度に募集・選抜を開始するため、派遣は2023年度から（2年次派遣）となる。アジアグローバル生第1期となる2022年度入学のプログラム生に対しては、プログラムガイダンスや派遣前教育でコース内容を周知し、コースプログラムへの誘導を図っている。

オンラインを利用したインテンシブアジアコース募集説明会には、実渡航中のプログラム生も参加し、派遣先大学での学習・生活・学生交流の3つを軸にした実体験について参加希望者に案内することで、プログラムの学びの理解度を高めた。

別表1:プログラムごとの派遣学生数(2021年度採択)

(単位:人)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)														
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う派遣学生数						左記以外の派遣学生数								
						(計)		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績			
千葉大学、芝浦工業大学	ソーシャル・デザイン・イニシアティブ	2021	12	48	400.0	12	48	0	1	0	0	12	47	0	0	0	0	0	0	
		計	12	48	400.0	12	48	0	1	0	0	12	47	0	0	0	0	0	0	
東京大学	アジアの国際関係・公共政策・DD、交換留学、オンライン教育のためのBESETO + NUS共同教育基盤形成	2021	13	4	30.8	13	4	0	0	0	0	13	4	0	0	0	0	0	0	
		計	13	4	30.8	13	4	0	0	0	0	13	4	0	0	0	0	0	0	
東京芸術大学	日中韓+ASEANの文化・経済圏発展に向けた、アニメーション教育・研究のための共創プラットフォーム構築	2021	1	15	1500.0	0	0	0	0	0	0	0	1	15	0	15	0	0	1	
		計	1	15	1500.0	0	0	0	0	0	0	0	1	15	0	15	0	0	1	
東京工業大学	日中韓最先進科学技術4大学(T4KN)共同教育プログラム	2021	8	5	62.5	0	3	0	3	0	0	0	8	2	8	2	0	0	0	
		計	8	5	62.5	0	3	0	3	0	0	0	8	2	8	2	0	0	0	
東京海洋大学	持続可能な海洋開発・利用を実現する高度専門職業人養成プログラム-オケアヌスプラス-	2021	6	22	366.7	6	2	5	0	0	1	2	0	20	0	20	0	0	0	
		計	6	22	366.7	6	2	5	0	0	1	2	0	20	0	20	0	0	0	
名古屋大学	東アジア共通法の深化と世界への発信にむけた法的・政策的プラットフォームを支える人材育成	2021	30	5	16.7	30	1	0	0	0	30	1	0	4	0	4	0	0	0	
		計	30	5	16.7	30	1	0	0	0	30	1	0	4	0	4	0	0	0	
大阪大学	グローバル社会における健康問題解決を担う医学・公衆衛生学研究リーダーの育成	2021	72	40	55.6	32	36	28	34	1	1	3	1	40	4	40	4	0	0	
		計	72	40	55.6	32	36	28	34	1	1	3	1	40	4	40	4	0	0	
神戸大学	異分野共創によるリスク・マネジメント専門家養成共同教育プログラム	2021	16	7	43.8	16	7	0	0	0	0	16	7	0	0	0	0	0	0	
		計	16	7	43.8	16	7	0	0	0	0	16	7	0	0	0	0	0	0	
九州大学	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム-プログラムのパッケージ化とASEANへの展開-	2021	50	31	62.0	7	8	0	0	0	0	7	8	43	23	40	23	0	0	
		計	50	31	62.0	7	8	0	0	0	0	7	8	43	23	40	23	0	0	
九州大学	アジアのゼロ・エミッション持続循環型環境都市を牽引する人材育成・協働教育プログラム	2021	10	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	10	0	0	0	0	
		計	10	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	10	0	10	0	0	0	0	
長崎大学	アジアの大学間連携による持続的社会保障整備を支えるグローバル人材育成事業	2021	0	6	-	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	0	0	0	
		計	0	6	-	0	0	0	0	0	0	0	0	6	0	6	0	0	0	
早稲田大学	文明間対話促進のための文化的知性を備えたソーシャルイノベーター共同育成プログラム	2021	10	0	0.0	10	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		計	10	0	0.0	10	0	0	0	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計			228	183	80.3	126	109	33	38	11	1	82	70	102	74	98	74	0	4	
タイプA②	立命館大学、立命館アジア太平洋大学	東アジアグローバルリーダー養成のための、日中韓共同運営移動キャンパス	2021	61	72	118.0	32	34	0	0	0	32	34	29	38	29	38	0	0	0
			計	61	72	118.0	32	34	0	0	0	0	32	34	29	38	29	38	0	0
合計			61	72	118.0	32	34	0	0	0	0	32	34	29	38	29	38	0	0	
タイプB①	東北大学	アジア型デンティストリーコンソーシアムによるマルチモーダルなグローバルリーダー育成	2021	10	24	240.0	2	24	0	24	0	0	2	0	8	0	0	0	5	0
			計	10	24	240.0	2	24	0	24	0	0	2	0	8	0	0	0	5	0
	筑波大学	地球規模課題解決に資する教育政策マネジメント専門人材育成プログラム	2021	20	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	20	0	0	0	0
			計	20	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	20	0	0	0	0
	山梨大学	A3I:アジア実問題解決駆動AI教育プログラム	2021	15	11	73.3	15	0	0	0	0	15	0	0	11	0	11	0	0	0
			計	15	11	73.3	15	0	0	0	0	15	0	0	11	0	11	0	0	0
	名古屋大学	アジア諸国における炭素ゼロ化に向けたための人材育成	2021	22	25	113.6	22	0	0	0	20	0	2	0	25	0	25	0	0	0
			計	22	25	113.6	22	0	0	0	20	0	2	0	25	0	25	0	0	0
	広島大学	インクルーシブ・マインドを醸成するアジア地域国際協働人材育成	2021	10	7	70.0	10	7	0	0	10	7	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	10	7	70.0	10	7	0	0	10	7	0	0	0	0	0	0	0	0
	長崎大学	持続可能なアジアの水産と海洋環境を実現する国際協働人材養成プログラム	2021	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	立教大学	リベラルアーツの高度化に向けたアジア4大学共同体-国際共同副専攻によるグローバルリーダー育成	2021	6	6	100.0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	6	6	0	0	0
			計	6	6	100.0	0	0	0	0	0	0	0	6	6	6	6	0	0	0
合計			83	73	88.0	49	31	0	24	30	7	19	0	34	42	26	42	5	3	
総計			372	328	88.2	207	174	33	62	41	8	133	104	165	154	153	154	5	7	

別表2:プログラムごとの受入学生数(2021年度採択)

(単位:人)

大学名	事業名	取組年度	合計人数		達成目標に対する実績の割合(%)	(内訳)													
			目標(計)	実績(計)		単位取得を伴う受入学生数						左記以外の受入学生数							
						(計)		30日未満		3ヶ月未満		3ヶ月以上		(計)		30日未満		3ヶ月未満	
目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績		
千葉大学、芝浦工業大学	ソーシャル・デザイン・イニシアティブ	2021	12	27	225.0	12	27	0	0	0	0	12	27	0	0	0	0	0	
		計	12	27	225.0	12	27	0	0	0	0	12	27	0	0	0	0	0	
東京大学	アジアの国際関係・公共政策・DD、交換留学、オンライン教育のためのBESETO + NUS共同教育基盤形成	2021	12	0	0.0	12	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	
		計	12	0	0.0	12	0	0	0	0	0	12	0	0	0	0	0	0	
東京芸術大学	日中韓+ASEANの文化・経済圏発展に向けた、アニメーション教育・研究のための共創プラットフォーム構築	2021	2	12	600.0	0	0	0	0	0	0	0	2	12	0	12	0	0	
		計	2	12	600.0	0	0	0	0	0	0	0	2	12	0	12	0	0	
東京工業大学	日中韓新先端科学技術4大学(T4KN)共同教育プログラム	2021	10	27	270.0	0	0	0	0	0	0	0	10	27	6	27	4	0	
		計	10	27	270.0	0	0	0	0	0	0	0	10	27	6	27	4	0	
東京海洋大学	持続可能な海洋開発・利用を実現する高度専門職業人養成プログラム-オケアヌスプラス-	2021	0	61	-	0	0	0	0	0	0	0	0	61	0	61	0	0	
		計	0	61	-	0	0	0	0	0	0	0	0	61	0	61	0	0	
名古屋大学	東アジア共通法の深化と世界への発信にむけた法的・政策的プラットフォームを支える人材育成	2021	26	8	30.8	26	8	0	0	0	0	26	8	0	0	0	0	0	
		計	26	8	30.8	26	8	0	0	0	0	26	8	0	0	0	0	0	
大阪大学	グローバル社会における健康問題解決を担う医学・公衆衛生学研究リーダーの育成	2021	92	45	48.9	42	3	38	1	1	0	3	2	50	42	50	42	0	
		計	92	45	48.9	42	3	38	1	1	0	3	2	50	42	50	42	0	
神戸大学	異分野共創によるリスク・マネジメント専門養成共同教育プログラム	2021	12	1	8.3	12	1	0	0	0	0	12	1	0	0	0	0	0	
		計	12	1	8.3	12	1	0	0	0	0	12	1	0	0	0	0	0	
九州大学	エネルギー環境理工学グローバル人材育成のための大学院協働教育プログラム-プログラムのパッケージ化とASEANへの展開-	2021	28	55	196.4	6	30	0	20	0	0	6	10	22	25	20	25	0	
		計	28	55	196.4	6	30	0	20	0	0	6	10	22	25	20	25	0	
九州大学	アジアのゼロ・エミッション持続循環型環境都市を牽引する人材育成・協働教育プログラム	2021	7	8	114.3	7	8	0	2	0	0	7	6	0	0	0	0	0	
		計	7	8	114.3	7	8	0	2	0	0	7	6	0	0	0	0	0	
長崎大学	アジアの大学間連携による持続的社会保障整備を支えるグローバル人材育成事業	2021	1	24	2400.0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	23	0	23	0	
		計	1	24	2400.0	1	1	0	0	0	0	1	1	0	23	0	23	0	
早稲田大学	文明間対話促進のための文化的知性を備えたソーシャルイノベーター共同育成プログラム	2021	30	0	0.0	30	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	
		計	30	0	0.0	30	0	0	0	30	0	0	0	0	0	0	0	0	
合計			232	268	115.5	148	78	38	23	31	0	79	55	84	190	76	190	4	
タイプA②	立命館大学、立命館アジア太平洋大学	東アジアグローバルリーダー養成のための、日中韓共同運営移動キャンパス	2021	69	93	134.8	36	46	0	15	0	0	36	31	33	47	33	47	0
			計	69	93	134.8	36	46	0	15	0	0	36	31	33	47	33	47	0
合計			69	93	134.8	36	46	0	15	0	0	36	31	33	47	33	47	0	
タイプB①	東北大学	アジア型デンティストリーコンソーシアムによるマルチモーダルなグローバルリーダー育成	2021	10	15	150.0	3	15	0	13	0	0	3	2	7	0	0	0	5
			計	10	15	150.0	3	15	0	13	0	0	3	2	7	0	0	0	5
	筑波大学	地球規模課題解決に資する教育政策マネジメント専門人材育成プログラム	2021	20	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	20	0	0	0
			計	20	0	0.0	0	0	0	0	0	0	0	20	0	20	0	0	0
	山梨大学	A31: アジア実問題解決駆動AI教育プログラム	2021	45	22	48.9	45	0	0	0	0	0	45	0	0	22	0	22	0
			計	45	22	48.9	45	0	0	0	0	0	45	0	0	22	0	22	0
	名古屋大学	アジア諸国における炭素ゼロ化に向けたアジア地域国際協働人材育成	2021	66	45	68.2	66	0	0	0	60	0	6	0	0	45	0	45	0
			計	66	45	68.2	66	0	0	0	60	0	6	0	0	45	0	45	0
	広島大学	インクルーシブ・マインドを醸成するアジア地域国際協働人材育成	2021	40	34	85.0	40	34	0	0	40	34	0	0	0	0	0	0	0
			計	40	34	85.0	40	34	0	0	40	34	0	0	0	0	0	0	0
	長崎大学	持続可能なアジアの水産と海洋環境を実現する国際協働人材育成プログラム	2021	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	立教大学	リベラルアーツの高度化に向けたアジア4大学共同体-国際共同副専攻によるグローバルリーダー育成	2021	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			計	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計			181	116	64.1	154	49	0	13	100	34	54	2	27	67	20	67	5	
総計			482	477	99.0	338	173	38	51	131	34	169	88	144	304	129	304	9	